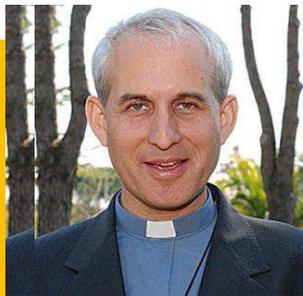
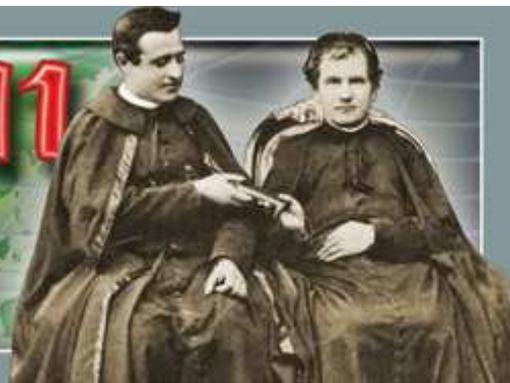


CAGLIERO 11

カリエロ 11

サレジオ会宣教ニュース N.73 - 2015年1月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友

人の皆さん!

私たちはいよいよ 200 周年の年に入りました。2015 年(アンゴラの人々の言うように)“両足を踏み入れ”ました。

私たちにとって 1 月は、いつもドン・ボスコでいっぱい月です。1 月 31 日の光に照らされた月です。この日は、私たちの愛する父が神のうちに生まれた日、まことの、決定的な誕生の日、永遠へと生まれた日です!

偉大なサレジオ会宣教師たちがこの 2 つの誕生を、常にごく自然に結びつけていたことに、深い感銘を覚えます: いのちに心をかけ、いのちを尊重する姿勢を広めること、子どもや新たに生まれるいのちへのやさしさと同時に、全面的に神に根ざすいのちの限りない喜びのあかしを通して、すべての人、すべてのものに情熱を吹き込むことです。

その意味で、ペルーの宣教師、ルイジ・ボッラ神父のあかしを人々に紹介することをお勧めします。ボッラ神父のあかしは、2015 年サレジオ宣教の日のビデオで紹介されています。

良いドン・ボスコの祝日

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

特別総会 (1972) 以降の総長たちは皆、「宣教活動は、私たちの会の本質といのちそのものに結ばれた不可欠な特質」(リッチェリ神父, 最高評議会報 267) であると、一貫して主張しています。このことは、「宣教の次元は私たちのカリスマの本質的要素」(ヴィガノ神父, 同 336) であり、したがって「私たちのアイデンティティーの一部」(フェルナンデス神父, 同 419) であることを意味します。このことから、「宣教のセンスは、選択肢の一つとなる傾向なのではなく、あらゆる時、状況においてサレジオ会員の精神を形づくるもの」(ベッキ神父, 同 362) だと言えます。

サレジオ会精神の本質的特徴であるので、すべてのサレジオ会員は、どこにいても一学校、大学、教会、職業訓練校、オラトリオ、森であろうと都会であろうと、自分の国であろうと、故郷を離れていようと、ドン・ボスコのカリスマに忠実であるとするなら、この宣教精神を生きなればなりません。このことは、ドン・ボスコの、「人々の救いへの情熱」と「イエスにおける満ち満ちたいのちの体験を分かち合う喜び」(チャーベス神父, 同 401) によって具体的に表されます。実際、私たちの創立者にとり、「宣教活動の源となった泉は……燃えるような使徒的熱意、魂を救いたいという願い」(リッチェリ神父, 同 267) でした。

今日、フランシスコ教皇は、**私たちのカリスマのこの宣教の次元を生きることが、「たえず宣教中である状態」のうちにサレジオ会員として生きること**、そして、イエスとイエスの民への情熱の火を保つことを意味すると、理解を照らしてくれます。その情熱は、司牧における怠惰、狭量さ、墓場の心理を乗り越えさせ、福音宣教の喜びを再発見する助けになります! (『福音の喜び』25,82-83, 268)

他方、すべてのサレジオ会員が宣教の精神を生きななければならないということは、**宣教師となる特別な召命を持つ会員がいることを除外せず、実際、その召命を含みます**。自分の国を出て、生涯をかけて、キリストを知らない人々、あるいはキリストを棄てた人々の間で宣教師となる召命です。

これが、2015 年サレジオ宣教の日の意味です: すべてのサレジオ会員の宣教精神の火を保たせ、すべての人へ、国を出て、生涯をかけて ad gentes, ad exteros, ad vitam 宣教する召命を感じる会員の識別を助けることです。

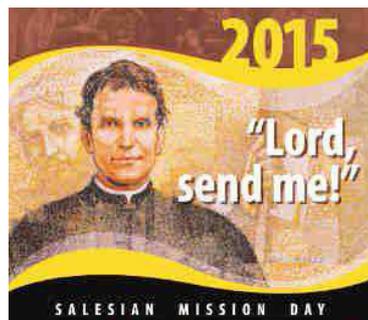
宣教部門 アルフレッド・マラヴィラ神父

ドン・ボスコのカリスマの
宣教の次元:
「たえず宣教中の状態」で
サレジオ会員として
生きる

2015 年より、サレジオ宣教の日のビデオはオンラインのみとなります。

http://www.sdb.org/en/Departments/Missions/SMD_2015&lista=video_2015

ダウンロードしてインターネット接続のない共同体に送るのは、管区宣教促進担当者の役目です。DVD でビデオを希望する支部があれば、管区担当者から宣教部門にご連絡ください。DVD 製作経費と送料は管区が負担することになります。





先 住民族の人々と初めて出会ったのは、2003年の修練期でした。マトグロッソのサレジオ・ミッションの先住民の共同体、ボロロ族とサバンテ族を知ることが、この段階の養成の一環でした。それは大変意味深い出会いでした。結局、私は願い出たとおり、実地課程の2年目、サン・マルコスのサバンテの共同体に派遣されました。この宣教体験は、神学の勉強の間も、休暇のときに続けられました。

2011年、私はサン・マルコスで助祭に叙階され、ノヴァ・サバンティーナの聖ドメニコ・サビオ“代牧”小教区のサレジオ宣教共同体の一員となる辞令を受けました。目的は、その地域の先住民サバンテ族の人々のために働くことでした。2013年に私は、ボロロ族とサバンテ族の人々の暮らすサングラドウロのサレジオ会共同体の一員でした。そこでは、教師、若者のグループのコーディネーター、典礼・文化祭・オラトリオのアニメーターを務めました。これらのミッションにおける過去50年のサレジオ会宣教史を進んで書き始めたほか、水力発電所のメンテナンス、農作、共同体の庶務も担当しました。……

現在、私は聖ドメニコ・サビオ代牧小教区に戻っています。この小教区は2つの教区と1つの知牧区、4つの先住民族の土地、150以上の村、広大な地域を管轄し、1万5千人の先住民族の人々が暮らしています。

私は自分を、洗礼によって、イエス・キリストの霊のうちに、ドン・ボスコのように生きるよう呼ばれた者だと思っています。教皇は『福音の喜び』の中で、イエスのこの重要な宣教の側面に注意を向けさせます。それは、イエスに従う人々の共同体を特徴づけなければならないものです。

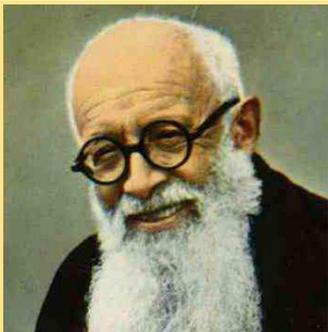
ドン・ボスコはこの呼びかけをよく理解し、アメリカ大陸のインディオの人々のもとへ宣教師を送りました。数多くの宣教師たちが故郷を後にし、信仰と愛をもって働くため、自らを献げてきました。ですから、この先住民族の人々の世界で、ほかの多くの夢見る人々の夢の一員であると、私は自分を見えています……そして第27回総会の挑戦に応えなければならないと思っています。総会は、現実の前線で、預言的な存在、福音宣教する存在が最も必要とされる場で、ドン・ボスコであるようにと私たちを招いています。自分の限界を認めながら、しかし同時に神と人々に開かれ、必要に応えるとき、ここから何かよいことが生まれうると私は知っています。ドン・ボスコと、先住民族の人々のために生涯を献げた多くの宣教師たちがそのことを証します。



サバンテの人々の言葉や文化を学ぶこと、文化受容した福音宣教、司牧のメンタリティーの変化、挑戦を投げかける新たなものに開かれていること、対話と互いを受け入れ合うことを通して内的・外的な対立(先住民族と先住民族でない人々間の)を乗り越えること、最も意味深い事業のために物も人も不足していることなど、確かに挑戦はあります。

しかし、先住民族の人々の中でのサレジオ会宣教活動が実を結んでいることも確かなことです。サレジオ・ミッションの働きを、私は特にうれしく思っています：闘いと夢は続くということです。私たちの持っている“わずかなもの”は、分かち合われるとき、“たくさん”になるということです。

ブラジル出身、サバンテ族のための宣教師
ジョゼ・アルヴェス・デ・オレヴェイラ助祭



サレジオの宣教の聖性のあかし

日本の宣教師、尊者モンシニョール・ヴィンチェンツォ・チマッティ(1879-1965)の手紙より：「ドン・ボスコ！ この名は、誓願のときに神に誓った私の務めを思い起こさせなければなりません；わが尊い父の生き方を思い起こさせなければなりません；そして父が、どのようにして私たちの修道会を形づくられたかを；ご聖体のイエスへの、キリスト者の扶け聖マリアへの、教皇と靈魂への父の大きな愛を、私に思い起こさせなければなりません。」(1925年12月25日)



サレジオ会の宣教の意向

全サレジオ会員のために

教会のうちに、境界を設けずに“前進する”会として、すべてのサレジオ会員が
辺縁の地へと出かけて行く大胆な宣教の勇気を持つことができるように。
2015年サレジオ宣教の日がその助けとなるように。

ドン・ボスコの名によって、ドン・ボスコの月に、ドン・ボスコの生誕200周年にあたり……今月、私たちは、ドン・ボスコの息子たち皆のために祈ります、私たちの創立者と同じ宣教の心を持ち、すべての人に神をもたらすため、いつもすべての人に心を開いていますように。

